

平成25年11月29日

岩美町議会
議長 津村 忠彦 様

岩美町議会
総務教育常任委員会
委員長 芝岡 みどり

委員会行政調査報告書

岩美町議会総務教育常任委員会は、平成25年9月11日に韓国済州島で開催された第3回アジア太平洋ジオパークネットワーク済州シンポジウムで行政調査を行いましたので、岩美町議会会議規則第77条の規定により別紙のとおり報告します。

1. 調査事項及び調査期日

調査先 韓国濟州島

調査事項 第3回アジア太平洋ジオパークネットワーク濟州シンポジウム

調査期日 平成25年9月11日(水)

2. 出席委員

総務教育常任委員会

委員長 芝岡 みどり 副委員長 澤 治樹

委員 船田 為久 委員 柳 正敏

委員 河下 哲志 委員 津村 忠彦

随員 議会事務局長 坂口 雅人

執行部 町長 榎本武利、商工観光課長 杉村 宏

3. 調査の目的

韓国濟州島で開催された第3回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムに参加し、次回山陰海岸ジオパークで開催されるアジア太平洋ネットワークシンポジウムの成功に向け開催状況を調査する。

あわせて、山陰海岸ジオパークは、平成22年10月に世界ジオパークネットワークに加盟してから平成26年には4年目となり、再審査が予定されている。

再審査を迎えるに当たり、ジオパークの保護と活用を進めるため、町民の機運を盛り上げ、一丸となって乗り越えていくことが重要となることから、このシンポジウムと地元とのかかわり合いについて調査する。

4. 調査の概要

(1) 濟州島の概要

濟州島(正式名称:濟州特別自治道)は、韓半島の最南端に位置する島で、およそ100万年前の溶岩噴出によって誕生した火山島である。

総面積は1,848平方キロメートルで大阪府と同等の面積。

人口583,284人(濟州市421,633人、西帰浦155,504人等)、年間約500万人の観光客が訪れる韓国で人気ナンバーワンリゾートである。

2010年10月にユネスコからジオパークの認証を受け、同年12月には国家(韓国)ジオパークの認証も受けている。

多様な火山地形と地質資源を有し、島全体がジオパークである。

代表的名所(9カ所):漢拏山、城山日出峰、万丈窟、西帰浦層、中文大浦の柱状節理、山房山、ヨンモリ(竜頭)海岸、水月峰、天地淵の滝

(2) 濟州シンポジウム概要

大会名 第3回アジア太平洋ジオパークネットワーク濟州シンポジウム

日程 公式プログラム:9月9日(月)~9月11日(水)

会 場 韓国濟州市濟州KALホテル

主 催 濟州特別自治道、APGN運営委員会

参加者 560名(25カ国)

うち、山陰海岸ジオパークからの参加者

兵庫県香美町長、新温泉町長、岩美町長、岩美町議会総務教育常任委員会、
豊岡高校生徒10名、事務局、各県各市町村担当者等総勢46名

(3) 大会プログラム

	8日(日)	9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)
8:00				登録	
9:00		登録		総会講演Ⅱ	
10:00		開会式 総会講演Ⅰ		休憩	
	登録			セッション	
11:00				SA1 SB3 - SD3	
12:00		昼食		昼食	
13:00			開会中	セッション	閉会后 ツアー
14:00		セッション	ツアー	SA2 SB4 SC3 SE3	
				コーヒーブレイク	
15:00	韓国 ジオパーク ワークショップ	SB1 SC1 SD1 SS1		セッション	
		休憩			
16:00				SA3 SB5 SC4 SE4	
				コーヒーブレイク	
				セッション	
17:00		SA4 - - SE5		SA4 - - SE5	
		ポスターセッション			
18:00		新GGNメンバーセレモニー		閉会式	
19:00		晩餐会		歓送晩餐会	
20:00					

このプログラムのうち、9月11日の総会講演Ⅱ、各セッション(分科会)、閉会式に参加し、各ジオパークの展示ブースを見学した。



(山陰海岸ジオパーク展示ブースは会場入口直前に設置)

①セッション（分科会）

各国、地域のジオパークの活動が報告され、それに対する質疑が行われた。進行、説明、質疑など英語で行われ、同時通訳を専用イヤホンで聞きながらであった。

どのジオパークも多くの人に来ていただく経済効果を期待する報告が多かった。



②閉会式（同時通訳はなし）

開会式は午後6時から行われ、最初に地元の民族ダンスが披露され、その後、閉会式へと進行し、済州島宣言（*1）が採択された。

最後に榎本町長、津村議長がステージに登壇され、町長が地元の組織委員長から大会旗を引き継ぎ、次回開催地を代表して英語でのあいさつ（*2）を行い、次回の開催を誓い合い、閉会式は終了した。



* 1

濟州島宣言

第3回アジア太平洋ジオパークネットワーク濟州シンポジウムは2013年9月7日から13日に韓国の濟州島世界ジオパークで開催され、25カ国から560名が参加した。

熟考の末、参加者は以下に関し、ここに確定する。

1. 地球科学は、大地の遺産の保全、ジオツーリズムや世界ジオパークイニシアティブの促進に重要な役割を果たしてきた。

2. 地元住民、科学者、観光事業者、地方自治体、中央政府や他の利害関係者との密接な連携は、大地の遺産の保全、教育、観光やジオパークの適切な運営に不可欠である。それゆえ、ジオパークおよび地域社会の効果的な持続可能な発展が目標となる。

3. アジア太平洋地域での世界ジオパーク加盟団体間のネットワーク活動を向上させるために、APGN内での人材育成の強化が奨励される。例えば、様々な顧問の役割、ネットワークプログラム、共通の関心の研究プロジェクトや相互に関係する交流活動の開発や支援である。

4. 2004年にユネスコ地球科学部門の支援を受け発足し、第3回濟州シンポジウム時点で100のメンバーに達したGGNの大きな成功と急速な発展に対し、アジア太平洋ジオパーク加盟団体は祝福を述べる。世界ジオパークは、国際的に重要な地質遺産を有し、全域内の遺産管理、革新的・統合的で持続可能な発展や、地域の伝統や将来を尊重する戦略の実行を伴う領域である。

5. アジア太平洋ジオパーク加盟団体は、ユネスコジオパークプログラムあるいはイニシアティブの確立を通じて、ユネスコと世界ジオパークとの連携を向上させるためにユネスコの第36回総会の決定後に行われたこれまでの諸活動を支持する。

我々はユネスコ内での世界ジオパークへのサポートレベルの向上を歓迎し、第191回理事会の決定を踏まえて形成されたジオパークに関する作業グループによって行われた協議の結果を認識し、世界ジオパークとユネスコの現在の強固な関係が第37回総会においてさらに強化されることを期待する。

特に、世界ジオパークは完全にユネスコの傘下にあるべきで、世界中の世界ジオパークの発展のため、世界ジオパークとユネスコが一緒に取り組むことを我々は提唱した。このことは最も高い貧困レベルのアフリカ、ラテンアメリカ、南、東南アジアの地域で特に重要である。

2013年9月11日濟州島で実施

* 2 岩美町長（山陰海岸ジオパーク推進協議会副会長）あいさつ

私は、次の第4回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムの開催地である山陰海岸を代表してご挨拶を申し上げます。鳥取県岩美町長の榎本武利です。

昨年の5月のGGN総会で2015年に山陰海岸でアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムが開催されることが正式に決定しました。開催にいたるまで、GGNの委員やAPGNのコモオ会長そして多くの方々に、ご支援をいただき、大変感謝いたしております。

我々が暮らす山陰海岸ジオパークは、日本列島がアジア大陸の一部であった時代からの貴重な地形・地質遺産を残している地域です。また、そこから生み出された自然を背景に多様な文化や歴史が育まれてきました。我々は、山陰海岸の貴重な地質遺産を保全し、地域の活性化につなげていこうとジオパーク活動を展開しています。

今年、岩美町では、8月26日から9月5日まで今回のシンポジウムの開催国である韓国の作家（チェ・ソクホ）先生をお招きし、「アートがつなげる人々と自然」をテーマに「岩美現代美術展」を開催いたしました。

また、山陰海岸の但馬地方には、朝鮮半島の新羅の王子のアメノヒボコが開拓したとの神話があり、また、その子孫でお菓子の神様として有名なタヂマモリが天皇の命令で不老長寿のお菓子を求めていた先がここ済州島だという説があります。今回まさにタヂマモリと同じくAPGNシンポジウムのバトンが済州から山陰海岸にわたります。

皆さんのお手元にあるポストカードを配布していますが、ご覧下さい。「JOIN US」です。JOINの「J」はJEJUの「J」、USの「S」はSANINの「S」です。JEJUからSANINです。次のAPGNシンポジウムは山陰海岸でお待ちしています。皆さん一緒につながっていきましょう。

3. まとめ

シンポジウム会場は、ホテルを貸切り、宿泊とシンポジウムが一体となった運営をしていたので、参加者にとっては非常に分かりやすく利便性が高いと感じた。

今回のシンポジウムに、山陰海岸ジオパーク関連の発表を「山陰海岸ジオパークの地域経済への効果」と題し、石田事務局長が行ったのを初め8名の大学教授などが行った。

次回は山陰海岸ジオパークでの開催が決定している。

岩美町としては、セッション（分科会）で地元の代表者の発表やシンポジウムツアーで、本町のジオサイトを多くの参加者に見学していただくことや、本町単独の展示ブースを確保し本町の魅力を発信していくことなどが考えられるので、事前に関係機関と協議し取り組む必要がある。

また、シンポジウム期間中、国内外から参加者がシンポジウムツアーなどで本町に多く訪れることが想像できることから、設置している案内板、看板などの点検を早急に行い、外国人に対しての配慮が不十分であるなら、早々に対応すべきである。

町民に対しても、2年後にシンポジウムがこの山陰海岸ジオパークエリアで、開催されることの周知及び開催歓迎ムードの助長を今から始める必要があると考える。

国内外からの参加者を町民挙げて歓迎する気持ちが重要である。

また、外国人にも対応できるボランティアガイドの養成は難しいが、早急に進めなければならない。

このようなことを推進していくことが、来年の再審査に向けての町民のジオパークに対する機運の盛り上がりにも繋がるので、執行部に対し一層の努力を望むものである。